



前田幸長 追悼特集

前田幸長さんが、2016年12月30日に亡くなられました。当編集部では、自由誌『ゆう』の会の皆さんなど、ご親交のあった方に追悼文を寄稿いただくとともに前田さんの足跡をたどりまます。なお、特集にあたり、神戸の平山忠敬さんに多大なるご協力をいただきました。

文献センター通信

第 38 号

2017年3月25日

一部 100 円

前田君
ありがとう
小黒基司

前田君と知り合ったのがいつ頃だったか、はっきりした記憶はない。「昭和二八年夏頃鴻野豊さんが家へ崎本正さんを連れてきた」と、彼が書いてるから私と知り合ったのは、その頃以降であらう。

或る日、崎本・前田・私の三人で新開地の喫茶店へ入った。コーヒーを注文する二人に対し、ボクはこっちの方をと前田君はビールを頼んだ。強烈な印象であった。

昭和三年一月一〇日、「私に知らなすすべての人よ、さようなら」のメモを残して、崎本正は消息をたった。この日、私は前田君とJR大阪駅中央口で会う約束をしていた。彼が村瀬、平山の両君をつれて、崎本・私と合わす

主 内 容	頁
前田幸長追悼特集	1
前田幸長さん略歴	2
神戸の前田さん(平山忠敬)	3
『アナキズム入門』記念イベント	4
アナキズムから見たロシア革命	5
伊藤野枝さんへ(ガブリエル)	7

手筈であった。結果、三人には長時間待ち采けを喰らわすという、悔の残る始末となってしまった。

前田君には、その後もそれこそおんぶにだっこで頼りきってきた。ありがとう。

前田幸長氏のこと 村瀬博之

前田氏に最初に会ったのは、同志社大学の入学式の日であったと思う。私は中学・高校と同志社だったのでぶら／＼と構内を歩いていたら講堂はどこですかと声をかけられたので驚いた。あれえ？

そうか今日は入学式かと、はいこちらですと講堂の方へ案内した。しばらくたつて、あの時、案内したのが前田君であったのかと気付いてびっくりした。

前田氏とは同志社大学で知り合いました。彼とは同学年(法学部)でした。

計 報

前田幸長(まただ・ゆきな)さん
2016年12月30日死去。83歳。かねてより前立腺がんを患っていたが、15年の秋、脳梗塞を併発、入院をくり返していた。安らかな最期で自由詩『ゆう』の仲間全員で野辺の送りをした。

彼は神戸外大に行っていたのですが、途中で同志社一年に入ってきました。彼は私より三年年上だったので何でもよく知っていました。特に、歴史と英語は得意で、僕は英語が苦手だったのでよく教えてもらえました。教材はロシユフーコー公爵の「格言集」でした。京都御所で毎日教えてもらいました。二人でエスペラント同好会を作り「SORTO」詩集(左)の発行を10号までしました。



前田幸長さん略歴

1933年(昭和8年)12月21日兵庫県神戸市葺合区(現中央区)生まれ。神戸市立の東須磨小、神戸第一中、須磨高校から神戸外国語大英米語科へ進む。外大は知的刺激に乏しく肌にあわぬと二年の春退学、父を怒らせる。

翌年、同志社大学法学部入学。高校で地理歴史部に入学したが、苦い戦争体験から社会問題にも関心を寄せる。共産党員の友人に入党を勧められるが、スターリン独裁党を拒絶。この頃、崎本正や小黒基司と交流、アナキズムを知る。龍武一郎と共にしばらく山鹿泰治宅に寄宿。後に山鹿の「老子直解」をガリ版で発刊。同志社ではエスペラント会をつくり、神戸で外国人エスペランティストの訪問を受け入れた。

1950年代中頃から向井孝や高島洋、山口英らと共にアナキへ

想い出

平山房子

前田幸長がこの世を去った。八十三歳の誕生日を十日前に迎えたばかりだった。私にとつては二歳違いの弟であつたが、或る時には兄の様な役割りを背負つてくれてずい分世話になつた。彼は須磨高校から神戸外大に進んだ。しかしその半ばで突然外大を退学し、同志社大学の法学部へと進んだ。これには誰もが驚かされた。息子の公立の外大合格を喜んで入学式まで同伴した



自由誌『ゆう』の仲間たちと。右から、小黒さん、前田さん、村瀬さん、平山さん

父は激怒し、高校の恩師からは「前田、あんたアホとちゃうか!!」となじられた。本人によれば「今の外大では毎日が高校の延長にすぎずつまらぬ」というだけであつた。いずれにせよ彼は自分の主張を通して同志社を卒業した。だがずっと後になってそこにはある別の動機もあつたことを私は知つた。彼はその時恋をしていた。どの様な事情があつたのか知らぬが彼はその女性の学費をかせぐ為に「街のサンドイッチマン」のアルバイト迄したことをチラリと私に話したことがあつた。その彼女はすぐに亡くなったと云う。私が聞いた事はそれだけだったが彼のその頃の行動を一寸理解する事が出来た。

チャオ、前田さん

平山忠敬

73年夏、前田さんと平山夫婦の3人でフランスで開かれたアナキスト国際集會に参加、そのあとヨーロッパ各国のアナキストを訪ねる旅をした。會議では前田さんが日本の状況を報告、それが私が英語に翻訳することを申し出たが時間がかかると拒まれた。エスペラン



トでの會議は無理だつた。参加者は各々仏語、西語、伊語、英語と自国語で話した。彼はなぜ日本語で報告できないのかと気を悪くして會議の主催者のレイモンに抗議した。言語の平等を訴えたかったのだろう。山鹿流のエスペランチストらしい態度だつた。シシリーから参加したフランコ・レツジョと意気投合した彼は日本語で旅を続けた。ローマ行きの車中で「腹へつたなあ、フランコ」と話しかけると途中駅でフランコはサンドイッチとワインのハーフトルを買ってきた。イタリア語と日本語の珍道中ですっかり打ちとけていたことが忘れられない。

スト連盟関西地協の若手として活動。アナキズムと文学の雑誌『イオム』の編集、現代アナキズムの会や無政府共同文庫、PBKの会、自由誌『ゆう』の中心メンバーとして活動。1970年代から印刷工として働き「版木の会」を組織した。

(文・平山忠敬)

●写真：1958年の平和行進での前田さん（右から六人目。一人目は河本乾次さん、二人目は平和行進に参加した龍武一郎さん）



神戸の前田さん〜神戸アナキズム運動素描

平山忠敬

笠原勉さんは神戸の大先輩で何度か出会った。短歌を詠み「布引詩歌社」を設立、自由律短歌同人誌を刊行、1935年に無政府共産党事件で検挙された『ゆう』5号に前田さんが書いてる。地協の例会後、三宮駅近くの酒屋で飲んだ折、「神戸は米騒動や三菱川崎造船の大労働争議などがあり、アナキスト運動の歴史は連綿と続いた」と語った。それは向井孝、山口英、高島洋さんらの運動に引き継がれたということだろう。

76年まで発行。印刷は途中から戸田さんの摩耶プリントで行った。河本乾次、日野善太郎、寺島珠雄のみならずも記事を寄せている。

アナ連解散後の運動の一つは73年3月創刊の『イオム・アナキズム／思想と文学』(左)。編集は前田さんが中心になり、戸田広介さんや高島さんらが

『イオム』の二年後、75年3月に発足したのが神戸無政府共同文庫である。たくさんの仲間が本を出し合い、若者たちも集まった。ほど近い灘区で仲間

の池沢さん夫妻は居酒屋を開店した。76年には共同文庫から、杉藤二郎さん(50年代、アナ連機関紙『平民新聞』を独力で発行)の『筑豊の黒旗』を刊行した。戸田、前田の二人は印刷工な

ので問題はなかった。しかし、戸田さんはこのあと山形へ移った。小説を書いていた彼は創作に専念したかったのではと見る向きもあるが、摩耶プリントも赤字を出していた。

やがて共同文庫は立ち行かなくなってきた。小黒、前田、平山ら三人で相談、アパートの一室を借りて保管したが、震災後に高島さんの本も加えてアナキズム文献センターに寄贈した。

神戸四人組のもう一つの仕事は97年3月、『高島洋追悼録』の刊行だった(A5版・216ページ)。04年には向井さんが逝き、また追悼録という話から自由詩『ゆう』が生まれた。くしくも向井さんと山口さんの追悼集を『ゆう』で編むことになってしまった。これで神戸組の活動が終わった。

いろいろご支援くださった皆さんに心から感謝申し上げます。

【募集】

前田幸長さんの思い出などぜひお寄せください。本通信で紹介させていただきます。宛先は巻末の東京事務局もしくは、下記メールアドレスまで。contact@cira-japan.net



メンバー(60〜63年頃)アナ連機関誌『自由連合』を販売する高島洋さん(左)と前田さん(右)

『アナキズム入門』 出版記念イベント

著者の森元齋さんが新宿でトーク



森元齋著『アナキズム入門』（ちくま新書）の出版を記念して、森元齋、栗原康、マニユエル・ヤンの三者による

トーク・イベントが、三月五日に新宿イレギュラー・リズム・アサイラムで開かれた。参加者は二〇代〜四〇代のおよそ五〇名。店内に入りきれない人もいたため、おそらくそれ以上の来場者があった。あぶれた人たちはあぶれた人同士で店の外で交流会を開いていたように、内も外も大盛況のイベント

となった。わざわざ会場近くに宿を取って遠方から駆けつけた人もいた。

森氏が、セックス・ピストルズやハキム・ベイなど、アナキズムに接近するきっかけとなった人物や書物について語ることからトークははじまり、それを受けてヤン氏が若い頃に夢中になったというグリール・マーカス著『リップスティック・トレイシーズ』で応答。セックス・ピストルズを論じるにあたって、シチュアシオニストやダダを関連づけるのみならず、中世レヴァントのテロリストにまで遡ってしまうような大著だが、中世といえは、ということ、

『死してなお踊れ 一遍上人伝』を出版したばかりの栗原氏が一遍上人の数々のアナキーなエピソードを紹介。トークはそのような調子で、資本主義によってすっかり失われつつある、人が本来持っているアナキズム性（もしくは野蛮性）を思い起こそうというテーマを軸に、三者それぞれが専門の知識を活かしながら、『アナキズム入門』で取り上

げられているアナキストたちの逸話も交えて展開され、アナキズムの魅力を幅広くふんだんに伝える内容となった。

トーク後は、それぞれ強烈な香りと味を持ったスパイスをこちゃ混ぜにすることでなぜか美味しくなる「カレール」にアナキズムを見るケータリング・ユニット「カオスフーズ」のカレーも振る舞われ、こちらも大好評だった。

（報告：成田圭祐）

新刊紹介

●森元齋著『アナキズム入門』ちくま新書（筑摩書房） 272頁 定価860円＋税

国家なんて要らない。資本主義も、社会主義や共産主義だって要らない。いまある社会を、ひたすら自由に生きよう―そうしたアナキズムの思考は誰が考え、発展させてきたのか。生みの親ブルドンに始まり、奇人バクーニン、聖人クロボトキンといった思想家、そして歩く人ルクリュ、暴れん坊マフノといった活動家の姿を、生き生きとしたアナキーな文体で、しかし確かな知性で描き出す。気鋭の思想史研究者が、流動する瞬間の思考と、自由と協働の思想

をとらえる異色の入門書。（本書より）
【目次】はじめに：アナキズムとは何か
コミュニケーションとは何か ほか

第1章：革命―ブルドンの知恵（アナキー・イン・ザ・フランス、マルクスのブルドン批判 ほか）

第2章：蜂起―バクーニンの闘争（奇人、バクーニン、破壊と創造 ほか）

第3章：理論―聖人クロボトキン（クロボトキン、シベリアへ行く、学者とアナキストの道へ ほか）

第4章：地球―歩く人ルクリュ（地を這うアナキスト、ネイチャー・ポーン・アナキスト ほか）

第5章：戦争―豊かなウクライナ、革命家マフノ ほか）

●編集部より：アナキズムカレンダー 2017年「石川三四郎とルクリュ」にもご寄稿いただいた森元齋さんの新著です。当文献センターもほんの少しですが、資料提供で協力しております。



◎シンポジウム報告 アナキズムから見たロシア革命

今年ロシア革命から百年の節目に当たるのを期して、アナキズムの視点からロシア革命をとらえ直し、その現代的な意味を考えていこうとするシンポジウムが3月4日、明治大学和泉キャンパスで開催された。主催は初期社会研究会他で、参加者85名を得て活発な議論がくり展げられた。気付いたのは、若い人の姿がこの手の会合としては多かったこと。

報告者とテーマは、以下の通り。

①森元齋：郊外の絶望から、アナキズムが生まれるーマフノ運動と現代のアナキズム／②後藤彰信：サンジカリストのロシア革命観ー入露したサンジカリストたち／③山本健三：ロシアの知日アナルコ〓サンジカリスト、ニコ



ライ・ペトロフ〓パヴロフ／④栗原康大杉栄のロシア革命論と現在／⑤梅森直之：初期社会主義とロシア革命／⑥黒川伊織：「アナ・ボル対立」再考ー第一次日本共産党の成立事情／コメントーター：山泉進、山中千春／趣旨説明・基調報告・司会：田中ひかる

当日の各報告は『初期社会主義研究27号』に掲載予定とのこと。一、二点感想を付け加えておくと、ロシア革命が日本にどのような影響を与えたか、もしくはどのように受容されたかについての実証的な研究があつていいと考えている立場からすると、後藤氏のテーマは興味深くはあつたが少し突っ込み不足というかアプローチの視点(ロシア革命〓統御された「野蠻」)が分かりづらかった。もう少し史実に即した積み重ねがないと説得力をまたないように思った。

また黒川氏の報告は面白く、とくにアナ・ボルと分けて研究することで見えなくなるがあるので一体として叙述していくことが必要ではないかと

の指摘は新鮮に感じ、また戦後神戸の運動の聞き取り調査から、向井孝の『自由連合』が取り上げられていたのは、すでに歴史研究の対象となつている70年代からの時の流れを感じさせることであつた。

八街だより

■12月2〜4日 金曜日に仕事を終えてから八街へ。遅くなつてもとにかく八街に入つていれば、翌土曜日は丸一日フルに使えるので、このところのパターンとなつている。本以外の資料整理がテーマ別のコンテナ導入で捗るようになった。

■12月15日 友人とふもとの家に。龍さん元気であるが歩行の様子が気になる。膝が痛むようであるが、11月はさほどではなかつた。この日の仕事は前回に引きつづいて庭木の剪定で、龍さんの指示でバシバシと枝を払つた。

ここで威力あるチェンソーの持ち主である友人を紹介しておく、増山君といつて70年代に龍さんを中心に土方仕事を一緒にやった人で、中村君や私と富士宮で一時期同じ屋根の下で生活

した。それ以来のふもとの家との付き合いのある人で、今回は8月から毎月馳せ参じてくれる。

■1月17日 上旬に八街を予定していたものの正月に風邪を引いて寝込んでしまい休んでしまった。この日は山口君を煩わせて貯つていた資料を倉庫に運び込んでとんぼ帰り。帰りに道を間違えてか、予期せず横浜の暮れゆく景色が味わえた。

■1月20日 増山君とふもとの家に。雨の予報があつたのでチェンソーは持参せず、屋内の掃除に専念した。貯つていた新聞・郵便物などを整理し、他のゴミとともに地区の集積場所に運び込んだ。

■2月28日 2・3月は八街行きはおやすみ。この時期は寒さが厳しく、倉庫内での仕事が捗らないためである。28日のこの日は増山君とふもとの家に。この日は伐採した枝の整理。結構な量となつていて、短く切つて結束・集積するなどとても一日では片付かなかつた。事前の通知がうまく届いていて(郵便受けに眠つておらず)龍さんも用意万端、作業着に着替えて私たちの仕事を手伝つてくれた。

(奥沢邦成)

連載(10)「日本会議」の断面―

元・最高裁判所長官・三好達
『日本会議』会長職、15年が
示すもの―

武智 忍

二〇一六年、G7の会議が伊勢で開催され、各国の首脳が伊勢神宮に参拝することが決まった。これに危機感を持った外電が、アベ政権と国粋≡排外主義団体「日本会議」との密着を報じた。これを契機に、各メディアが「日本会議」報道をくり広げだした。

*

「サンデー毎日」二〇一六年七月十七日号によれば、

―「日本会議」とは、九七年、「日本を守る会」と「日本を守る国民会議」が統合して創設された右派運動体。改憲を中心にさまざまな政治運動を展開。

全国都道府県に本部を持ち、会員数は約三万八〇〇〇人といわれている―とある。

「日本会議」という運動体。

そもそも始まりはナニなのか？

一九六六年、十月。

「九州で右翼が自治会を握ったらしい」という噂が伝わってきた。

まもなく、それは長崎大学。「生長の家」の学生組織で「憲法を否定し、天皇中心の国に戻そう」という復古主義者らしい。」。

そこまで聞いて、みんな笑った。

リーダーの一人が梶島有三(日本青年協議会・会長 日本会議・事務総長)と知ったのは、七〇年代に入ってからのことである。

明治政府。伊藤博文は、欧米にならった近代国家として日本を整備し、その権威づけに天皇をかついだ。

当時の私(たち)の理解は、ざっとその程度のものであった。敗戦後の哀れを極めた昭和天皇の生き残りは、正視に耐えないものだった。

*

一九七八年、「元号法制化実現・国民会議」議長に元・最高裁判所長官、石田和の名を見た時、復古主義者たちの運動に対する私の認識は変わった。

在任中は悪評の高かった司法のトップを大衆運動の神輿にかつぎ出した。その政治手法の巧みさ、あくどさに胸をつかれたのである。

一方の国会では、平沼赳夫(「日本会議」国会議員懇談会・会長)が子飼いの郎党を集めている。

*

一九九二年、十月。最高裁第一小法廷。裁判長・三好達は、一九七五年に提訴された「福島第二原発1号機設置許可処分取り消し訴訟」を棄却した。

その三好氏は九七年、定年退官。二〇〇一年、元・最高裁判所長官として「日本会議」第三代会長に就任している。

憲法を守る機関、最高裁のトップにいた者が、憲法を否定して改憲を進める運動体のトップだったのである。

三好氏は、十五年間、会長を務め、現在も名誉会長として名を連ねている。

教科書には、「三権分立・司法の独立」が国を支える柱だとある。

しかし、日本の現状を見て、司法の独立が保たれていると感じるのは、TVのバラエティ番組を通してしか社会



日本会議名誉会長・三好達氏

を眺めない、幸せな人たちに限る。

国の行方を左右するような重要な裁判では、判事の決定(判決)が揺れ、それが高裁・最高裁にいくにつれ、国策に統合される。原発訴訟を見れば、それは明白な事実。

最高裁の長官とは、その国策の体現者なのである。

石田氏、そして三好氏。

彼らの腐った指先が示す暗黒。それが指し示すのは、国粋主義≡排外主義そのもの。

そう…トランプ下のアメリカ、移民を排する移民の国あの無残な荒野だ。

*

「日本会議」についての記述は多いが、この事実についての論評は皆無である。これが日本のメディアの実情。メディアは、今もみずからがタブーを作りだしているかのようだ。

この春、汚水まみれの石原慎太郎・元知事と政治上手な小池百合子現知事が豊洲市場で猿芝居を演じている。が、「日本会議」の名簿では、二人は仲良く手をつないで並んでいる！

彼らの打算、思惑の向こうにどんな水脈があるのか。

本稿は、機を見てそこに触れたい。

ガブリエルからの手紙〜フランスより

伊藤野枝さんへ

伊藤さん！野枝さん！元気ですか？

「六月七日無事出産いたしました。またまた女です。仕方がありませんから婦権拡張にとめます」って、野枝さん書いたの覚えてる？そう、時は1922年、

生まれた子にルイズ（ルイ）って名前を付けたんだよね。で、その半年後に、

大杉さんは日本を脱出するとフランスへ向かった。あの時の手紙、野枝さんが叔父さんの代準介さん宛に送ったハ

ガキは、すごい時間が経ってから代さんが、ルイさんが女学校卒業した時に渡したんだって。（伊藤ルイさん証言、大杉栄・伊藤野枝・橘宗一追悼集にて1992年9月16日）

野枝さんさ、「またまた女です。仕方がありません」ってのは女の子産むの4人目やったっていう意味での「また女の子だよ」ってのもあんのかもしれないけど、「仕方がない」っていうのは、どういうつもりなんだろう？って思った。生まれてくんのは「男が良かったのに、女だわ」……とも理解出来るよ読んでて。

11人産んでるんだよね……スゴくない？野枝さんも7人産んでるけどさ、12回

出産だよ12回すごいよね。そうそう、年齢で言うとな、野枝さんと与謝野晶子

さんの間の人になる平塚さん、平塚らいてうさんっていうじゃない、あの人めちゃくちゃオモロい人やね。

父ちゃんに無理やりお茶の水の学校に入れられたけど、「は？良妻賢母教育？舐めんなwww」って、友達と

「海賊組」作って授業サボったりとかさ。完全にパンク少女やんけ。

でさ、平塚さんの父ちゃんが酷かったね……「女には女学校以上の学問いらん！」って、平塚さんが大学で英文希望してのに無理やり家政学部にとか最悪やわ……で、平塚らいてうさん「お茶の水と一緒にやねえかよ」ってキレたと、コレ当たり前でしょ。

そんな平塚さんは子供産んだは良いけど、愛する年下の画家・奥村さんの絵が売れなくて平塚さんが「良いよ、あたしが稼ぐからOK」って言ったは良いけど、赤ちゃん泣くし、睡眠不足とストレスでミルク出なくて、「なんなんコレ、与謝野さん女性に経済的に独立せんかい言うてるけど、見てコレあ

たしを。あたし稼ごうとする、はい、子育て大変ストレス睡眠不足ミルク出ません。は？どゆことよ？」となったと。

でも、与謝野晶子さんは「妊娠・分娩、そんなん国に頼るなよ、経済的に自立しないと男女平等とか言ってるんじゃないよオイオイ、あたしを見てみ？11人も産んで育ててんですけど？」って人じゃん。

それに対して平塚らいてうさんは、「え？あたし子供2人でも大変なんすけど。女性と子供の権利守ってや。スウェーデン人のエレン・ケイも言ったんだけどさ、女性が子供産んで育ててるのは、神聖な事やんか。そこ国が保護する所でしょうがよ、じゃねえと社会全体の幸せとかねえし。っていうか、まず女性を解放しろっつーの」って言ってシングルマザーになった彼女。

そうそう、野枝さんと同時代の人でさ、野枝さんより2歳上の市川房枝さんっていうじゃない。市川さんの父ちゃんは畑売ってまで、「俺は勉強しないから百姓やってんだ、オマエら子供たちは学校行け」の「教育熱心」だったよね。でも、自分の妻は殴るドメスティックバイオレンス男で、それに「女だからしや

言いたかったのはさ、「よっしゃコノ子たち、将来おんなの子から女性となる子たちの為にも、今まで以上に婦人・女性の権利、Women's Rights！を叫ぶぞ」ってこと？

もちろん「婦権拡張」って書いてるしさ、そういう意味は込められてるだろうとは思うけど……どうも「仕方がありませんから」ってのは引つかかるんよね。

で、ルイ産んだ1年後の8月9日にネストルっていう男の子産んだでしょ。そんな時さ、「あ、やっとなぎタ……」とか思ったわけ？ま、今度詳しく教えよ。

で、野枝さんのハガキの件から色々思っ……あの人やあの人のお産、子どもとの関わりって、どうやったんやろ？って思った改めて。

野枝さんも知ってる与謝野晶子さんっておるやんか、野枝さんより17歳年上の。あの与謝野晶子さんは、1人生後2日で亡くしてしまった子以外に

「あないねん」と言う母ちゃんを見て、市川房枝さんは「は？なんで？なんで女だと我慢なわけ？さげんな」つって、で、学校では「教育教育ってコレかよ、良妻賢母教育じゃねえかよ。こんな教育だつたら要らねえわ、ふざけんなつーのボーコットはい決定ー」つてなったんよね。

で、東京で平塚さんと市川さんが会って意気投合して、2人して政治演説聞きに行つて追い出されたりとかして…で、市川さんはミサオつていう養女がいたんだつてね。

そこからの、また野枝さんの出産・子どもの話に戻すけどさ：野枝さんも今みたらビックリすると思うよ。なにが？つて、日本のニュース。

待機児童とか、少子化つてのが「問題」となって近年頻繁にニュースになったり、国会で議論が上がったりしてるの知ってる？

あ、待機児童つてのは幼稚園に入れないうつていう話のことね。子供幼稚園行けません、席ありません、待機だつて言われて、ハイどーすんの？誰が子供の面倒見んの？わたし（主に母親）、仕事復帰・探したいんですけどコレどー

すんの？

国も「女性の活躍」、「働く女性」つてるけど、それ「子供持つ女性」の事は含まれてないの？え？つて、そういう状況の中、同時に「子供産んで子供減つてる」少子化ヒト、将来国滅び…ヒト」つと聞こえてくると、そういう状況なんよ。

そうそう、野枝さんも与謝野晶子さんも子供沢山産んでるけど、この間つと思たんだよ。避妊つて、どうしてたん？つて。

で、コンドームのこと調べたら、日本で初のコンドームは1909年に出たらしいね。まだ完璧なコンドームじゃな



フランスの「アネニスペー」では、店内で様々なデザインのコンドームを無料配布

かつたらしいけど。1909年だから、

野枝さん14歳の時だったんだね。まあ、あの時代やし売つても高すぎるとか普通にして手に入るモノじゃなかったんだらうけど…ま、その辺のこと、今度一緒にお茶でもしながら色々話しようよ野枝さん、どうせ子供の面倒は大杉さんの周りの人たちに預けてくるんでしょ、時間あるでしょwww
じゃあね！

新刊紹介

大澤正道著『アはアナキストのア
さかのぼり自叙伝』三一書房 四六判
319頁 定価3000円＋税

「私はなぜアナキストになったのか？」著者自らその問いにこたえる形で、現在から半世紀以上の敗戦の廃墟に立った若き日の記憶へと回想して

いく。

本書は著者個人の倒叙による歴史であると同時に、同時代を生きた人々の運動と人生の軌跡でもある。鶴見俊輔との交友、編集者としての林達夫や久野収等との思い出、仲間だと思っていた人間との対立、異国で志を同じくする人々との出会い、組織の離合集散…様々な経験を現在からさかのぼる自叙伝。

これは20世紀の日本アナキズム運動史であり、その時代を作った人々の歴史だ。(三一書房公式ページより)

【目次】はじめに／長屋のご隠居の巻／私流疾風怒涛の巻／二足のわらじでえっさっさの巻／国破れて焦土に立つの巻／五人兄弟の未っ子の巻

アナキズム文献センター通信第38号

発行／2017年3月25日

発行所／アナキズム文献センター

編集／運営委員会

連絡先／東京都新宿区新宿

1-30-12-302

郵便振替口座／

00850-3-30010

口座名 A文献センター

Eメール／contact@cira-japana.net

定価／一部100円

